

## 年表

帝国石油の歩み	
1941(昭和16)年	
3月 <span><span></span></span> 帝国石油株式会社法公布(7月施行)	
9月 <span><span></span></span> 帝国石油(株)を設立、八田嘉明総裁就任	
12月 <span><span></span></span> 橋本圭三郎総裁就任	
12月 <span><span></span></span> 太平洋戦争勃発	
1942(昭和17)年	
4月 <span><span></span></span> 日本石油(株)、日本鉱業(株)、中野興業(株)、旭石油(株)の石油鉱業部門を譲受	
<span><span></span></span> 以降、1945年1月までに大日本石油鉱業(株)、太平洋石油(株)、北樺太石油(株)を合併、東邦石油(株)を買収	
5月 <span><span></span></span> 鳥海山油田(鳥海山R4号井)発見(1956.3譲渡)	
1943(昭和18)年	
8月 <span><span></span></span> 新潟水溶性天然ガス田(新潟地区)の開発に成功	
1944(昭和19)年	
1月 <span><span></span></span> 小田切ガス田(小田切C3号井)発見(1954.1譲渡)	
12月 <span><span></span></span> 石名坂油田(石名坂R1号井)発見(1988.8閉山)	
1945(昭和20)年	
3月 <span><span></span></span> 新発田油田(新発田R2号井)発見(1965.10譲渡)	
4月 <span><span></span></span> 緑十字船阿波丸、台湾海峡で雷撃により沈没(当社犠牲者480名余)	
8月 <span><span></span></span> 太平洋戦争終結	
1946(昭和21)年	
3月 <span><span></span></span> 立石信郎総裁就任	
1947(昭和22)年	
4月 <span><span></span></span> 檜橋油田(檜橋RI号井)発見(1988.7閉山)	
1948(昭和23)年	
2月 <span><span></span></span> 酒井喜四総裁就任	
1949(昭和24)年	
4月 <span><span></span></span> 加治川油田(加治川R1号井)発見(1965.10閉山)	
5月 <span><span></span></span> 東京・大阪・名古屋の3証券取引所に上場	
11月 <span><span></span></span> 東山油田(桂沢坑道)で日本初の水攻法実験を開始	
1950(昭和25)年	
1月 <span><span></span></span> 八橋油田高野R34号井が大噴油(深層開発の端緒)	
4月 <span><span></span></span> 帝国石油株式会社法を廃止する法律公布	
6月 <span><span></span></span> 民間会社として新発定、酒井喜四社長就任	
11月 <span><span></span></span> 小滝油田で新油層(小滝R39号井)発見(1971.12譲渡)	
11月 <span><span></span></span> 高野ガソリンプラント(アブソープションプラント)完成(1974.6廃止)	
1951(昭和26)年	
3月 <span><span></span></span> 八橋油田雄物川地区で水攻法を開始	
7月 <span><span></span></span> NRSのH.G.スケンク局長及び資源庁長官、八橋油田の採油管理につき勧告	
8月 <span><span></span></span> 八橋油田高野R61号井でガス圧入を開始	
9月 <span><span></span></span> 資源庁、八橋油田「採油技術管理」の第1次勧告を行う(10月に第2次勧告)	
1952(昭和27)年	
9月 <span><span></span></span> 田代寿雄社長就任	
1953(昭和28)年	
2月 <span><span></span></span> 石油及び可燃性天然ガス資源開発法に基づきコンサベーション実施	
10月 <span><span></span></span> 最上油田(堀内R2号井)発見(1958.4譲渡)	
1954(昭和29)年	
8月 <span><span></span></span> 明治ガス田(明治R6a号井)発見(1993.11頸城油・ガス田明治地区撤退)	
9月 <span><span></span></span> 鮎川義介社長就任	
10月 <span><span></span></span> 新潟水溶性天然ガス田(内野地区)発見(1978.10生産停止)	
11月 <span><span></span></span> 岸本勲太郎社長就任	

### 1955(昭和30)年

1月  象潟ガス田(象潟R4号井)発見(1984.11閉山)

6月  明治ライン(明治～日本ステンレス間7.7km)完成(6月に日本ステンレスへ、7月に信越化学工業へ天然ガス供給を開始)

9月  帝石テルナイト工業(株)を設立(1966.10(株)テルナイトと改称)

11月  石油資源開発(株)へ従業員移籍(1965年度までに合計1,010名)

12月  石油資源開発(株)と鉱業権譲渡契約締結

12月  富鑿井工業(株)(1963.9帝石鑿井工業(株)、1986.1帝石削井工業(株)に改称)の株式取得

### 1956(昭和31)年

5月  雄物川R2号井で日本初のフラクチャリングを実施

6月  帝石不動産(株)を設立

7月  東洋瓦斯化学工業(株)を設立(1985.9操業停止、1990.7解散)

11月  秋田石油化学(株)設立(1971.2解散)

### 1957(昭和32)年

10月  北海道電力(株)の豊富ガスタービン発電所完成(当社から供給の初の天然ガス利用)

11月  新津油田(小口R125号井)で火攻法現場実験を開始(1959.1油層の着火に成功)

11月  帝石橋竣工(新潟市に寄贈)

11月  高野LPGプラント完成

### 1958(昭和33)年

6月  レスリング部、第5回全日本社会人レスリング大会で団体優勝

12月  帝国プロバン瓦斯(株)買収(1968.2帝石プロバンガス(株)と改称)

### 1959(昭和34)年

2月  頸城油・ガス田(黒井R5号井、潟町R5号井)発見(2001.3生産終了)

8月  新潟地区天然ガス採取規制につき通産大臣から勧告(第1次規制)、9月から実施、その後順次規制強化

9月  二本木ライン(上越市・頸城区～上越市・中郷区)完成

### 1960(昭和35)年

3月  アラビア石油(株)へ従業員移籍(1965年度までに57名)

4月  西長岡ガス田(西長岡R1号井)発見(1973.5閉山)

6月  砂越油田(砂越R1b号井)発見(1980.12閉山)

9月  OPEC(石油輸出国機構)結成(サウジアラビアなど5か国)

11月  新堀油田(新堀R1号井)発見

12月  酒田天然ガス(株)の株式51%を取得

12月  新潟ライン(長岡市～新潟市)完成

12月  青海ライン(上越市～糸魚川市)完成

12月  頸城プラットフォーム(第一人工島)を設置(1985.8撤去)

### 1961(昭和36)年

6月  帝石不動産(株)、新潟帝石ビル完成

7月  関原ガス田(関原R3号井)発見

8月  長岡ライン(長岡市～上越市)完成

8月  東京ガス(株)と天然ガス供給契約締結

9月  帝石トッピング・プラント(株)を設立(1963.7操業開始　2012.12石油精製事業終結)

10月  天皇・皇后両陛下、秋田国体ご臨席のみぎり秋田鉱業所をご視察

10月  千葉県四街道地区の水溶性天然ガスの開発開始

### 1962(昭和37)年

5月  京葉パイプライン(株)を設立

10月  東京ライン(上越市～東京(豊洲)間330km)完成、東京ガス(株)に送ガス開始

### 1963(昭和38)年

7月  硬式野球部、第34回都市対抗野球全国大会(後楽園)に出場

8月  頸城プラットフォーム(第二人工島)を設置(1975.11撤去)

### 1964(昭和39)年

2月  林一夫社長就任

7月  マレーシア・サバ州の鉱区権益取得(現地法人サバ・テイセキ・オイル)

11月  南阿賀油田(南阿賀R2号井)発見

### 1965(昭和40)年

4月  聖籠ガス田(聖籠4号井)発見(1969.6閉山)

10月  成東ライン(山武市～千葉市)完成

### 帝国石油の歩み

### 1966(昭和41)年

3月  松崎ガス田(松崎1号井)発見(2011.3生産終了)

9月  米国アラスカ州の鉱区権益取得(アラスカ石油開発(株))

### 1967(昭和42)年

8月  頸城プラットフォーム(第三人工島)を設置(1973.6撤去)

10月  別所ガス田(別所TS－1号井)発見(1989.11閉山)

10月  石油開発公団設立(1978.6石油公団に改称)

### 1968(昭和43)年

3月  桑山ガス田(桑山2号井)発見(1989.12閉山)

7月  関原ガス田の天然ガス地下貯蔵工業化試験を開始(1969.3成功)

7月  マレーシア・サバ州陸海域鉱区の権益取得(現地法人サバ・テイセキ・オイル)

8月  頸城プラットフォーム(第四人工島)を設置(1988.10撤去)

12月  下浜ガス田(鮎川AK－1号井)発見(1978.6閉山)

### 1969(昭和44)年

3月  南能代油田(南能代1号井)発見(1976.9閉山)

9月  アジア海洋掘削(株)を設立(1974.9解散)

### 1970(昭和45)年

3月  成東ガス田のかん水によるヨードの委託製造及び販売開始

7月  エジプト・スエズ湾サウス・ガリブ沖鉱区の権益取得(エジプト石油開発(株))

7月  DRコンゴ沖合鉱区の権益取得(コンゴ石油(株))

9月  東柏崎ガス田(中通1号井)発見(2014.8生産終了)

### 1971(昭和46)年

1月  GCO油田(GCO1×号井)発見(コンゴ石油(株))

3月  国立防災科学センターからの依頼で岩槻地震観測井の作井を実施

12月  Esso Exploration社と常磐沖共同事業協定を締結

12月  アジア掘削(株)を設立(1986.7解散)

12月  ナイジェリア沖合OPL-72、73、86、92鉱区の権益取得(ナイジェリア石油開発(株))

### 1972(昭和47)年

3月  北日本大陸棚石油(株)を設立(1989.9解散)

3月  帝石運送(株)を設立(1974.2阿達運輸(後の東越運送)に吸収合併)

8月  直江津港廃油処理(株)を設立(1983.9帝石トッピング・プラント(株)に吸収合併)

10月  三井物産(株)と海外油田開発に係る業務提携協定を締結(1974.7三井石油開発(株)が加わり改定)

### 1973(昭和48)年

2月  野村英一社長就任

8月  Gulf社と宮崎・鹿児島沖、天草沖、千葉沖の共同事業協定を締結

11月  磐城沖ガス田(磐城沖1号井)発見(Esso Exploration社との共同事業)

### 1974(昭和49)年

6月  両毛ガス事業協同組合へ天然ガス供給開始

8月  埼玉ガス(株)の株式62%を取得

12月  Gulf社と八戸・仙台沖、石川・福井・山陰沖、沖縄沖の共同事業協定を締結

＊ 茶色の文字は一般社会事項

＊ ジャパン石油開発と記載されていない事項は、国際石油開発に関する事項

帝国石油の歩み	国際石油開発/ジャバン石油開発の歩み
1966(昭和41)年	
3月 <span><span></span></span> 松崎ガス田(松崎1号井)発見(2011.3生産終了)	2月 <span><span></span></span> 北スマトラ海洋石油資源開発(株)を設立、岡田秀男社長就任
9月 <span><span></span></span> 米国アラスカ州の鉱区権益取得(アラスカ石油開発(株))	2月 <span><span></span></span> 北スマトラ海洋石油資源開発(株)が北スマトラ石油開発協力(株)より北スマトラ沖鉱区の権益取得
	8月 <span><span></span></span> ジャカルタ連絡事務所を設置
1967(昭和42)年	
8月 <span><span></span></span> 頸城プラットフォーム(第三人工島)を設置(1973.6撤去)	9月 <span><span></span></span> 北スマトラ海洋石油資源開発(株)が石油資源開発(株)より、東カリマンタン海域のブニュー沖鉱区、マハカム沖鉱区の権益取得
10月 <span><span></span></span> 別所ガス田(別所TS－1号井)発見(1989.11閉山)	9月 <span><span></span></span> 社名をインドネシア石油資源開発(株)と改称
10月 <span><span></span></span> 石油開発公団設立(1978.6石油公団に改称)	10月 <span><span></span></span> 石油開発公団設立(1978.6石油公団に改称)
1968(昭和43)年	
3月 <span><span></span></span> 桑山ガス田(桑山2号井)発見(1989.12閉山)	6月 <span><span></span></span> 東カリマンタン・マハカム沖タンジュンサンタン事件発生。物探作業中に襲撃されて日本人下請作業員2名死傷
7月 <span><span></span></span> 関原ガス田の天然ガス地下貯蔵工業化試験を開始(1969.3成功)	
7月 <span><span></span></span> マレーシア・サバ州陸海域鉱区の権益取得(現地法人サバ・テイセキ・オイル)	
8月 <span><span></span></span> 頸城プラットフォーム(第四人工島)を設置(1988.10撤去)	
12月 <span><span></span></span> 下浜ガス田(鮎川AK－1号井)発見(1978.6閉山)	
1969(昭和44)年	
3月 <span><span></span></span> 南能代油田(南能代1号井)発見(1976.9閉山)	
9月 <span><span></span></span> アジア海洋掘削(株)を設立(1974.9解散)	
1970(昭和45)年	
3月 <span><span></span></span> 成東ガス田のかん水によるヨードの委託製造及び販売開始	4月 <span><span></span></span> UNION社(現 Chevron Indonesia社)とマハカム沖のアタカユニット共同作業協定を締結
7月 <span><span></span></span> エジプト・スエズ湾サウス・ガリブ沖鉱区の権益取得(エジプト石油開発(株))	7月 <span><span></span></span> ブニュー沖、マハカム沖両鉱区に関し、CFP社(現 TOTAL社)と探鉱作業並びに権益譲渡に関する基本協定を締結
7月 <span><span></span></span> DRコンゴ沖合鉱区の権益取得(コンゴ石油(株))	9月 <span><span></span></span> アタカユニットにおいて、アタカ油田(アタカ1A号井)発見
9月 <span><span></span></span> 東柏崎ガス田(中通1号井)発見(2014.8生産終了)	
1971(昭和46)年	
1月 <span><span></span></span> GCO油田(GCO1×号井)発見(コンゴ石油(株))	3月 <span><span></span></span> 北スマトラ沖鉱区に関し、GULFと共同作業協定を締結
3月 <span><span></span></span> 国立防災科学センターからの依頼で岩槻地震観測井の作井を実施	
12月 <span><span></span></span> Esso Exploration社と常磐沖共同事業協定を締結	
12月 <span><span></span></span> アジア掘削(株)を設立(1986.7解散)	
12月 <span><span></span></span> ナイジェリア沖合OPL-72、73、86、92鉱区の権益取得(ナイジェリア石油開発(株))	
1972(昭和47)年	
3月 <span><span></span></span> 北日本大陸棚石油(株)を設立(1989.9解散)	4月 <span><span></span></span> マハカム沖鉱区において、ブカバイ油田(ブカバイ1号井)発見
3月 <span><span></span></span> 帝石運送(株)を設立(1974.2阿達運輸(後の東越運送)に吸収合併)	11月 <span><span></span></span> サンタン・ターミナル完成。アタカ油田が生産開始
8月 <span><span></span></span> 直江津港廃油処理(株)を設立(1983.9帝石トッピング・プラント(株)に吸収合併)	12月 <span><span></span></span> 海外石油開発(株)、ADMA鉱区の権益取得
10月 <span><span></span></span> 三井物産(株)と海外油田開発に係る業務提携協定を締結(1974.7三井石油開発(株)が加わり改定)	
1973(昭和48)年	
2月 <span><span></span></span> 野村英一社長就任	1月 <span><span></span></span> アタカ原油引取第1船が日本に到着
8月 <span><span></span></span> Gulf社と宮崎・鹿児島沖、天草沖、千葉沖の共同事業協定を締結	2月 <span><span></span></span> ADMA鉱区における事業推進のためジャパン石油開発(株)を設立。今里廣記社長就任
11月 <span><span></span></span> 磐城沖ガス田(磐城沖1号井)発見(Esso Exploration社との共同事業)	4月 <span><span></span></span> ジャパン石油開発(株)、ADMA原油引取り開始
	5月 <span><span></span></span> ジャパン石油開発(株)、ADMA原油引取第1船が日本到着
	5月 <span><span></span></span> 吉岡千代三社長就任
	7月 <span><span></span></span> ロンドン事務所を設置(2000.1廃止)
1974(昭和49)年	
6月 <span><span></span></span> 両毛ガス事業協同組合へ天然ガス供給開始	1月 <span><span></span></span> ジャパン石油開発(株)、アブダビ政府のADMA利権への事業参加協定締結
8月 <span><span></span></span> 埼玉ガス(株)の株式62%を取得	2月 <span><span></span></span> マハカム沖鉱区において、ハンディル油田(ハンディル1号井)発見
12月 <span><span></span></span> Gulf社と八戸・仙台沖、石川・福井・山陰沖、沖縄沖の共同事業協定を締結	7月 <span><span></span></span> ブカバイ油田が暫定生産開始
	7月 <span><span></span></span> ジャパン石油開発(株)、アブダビ支店事務所を設置

帝国石油の歩み	国際石油開発/ジャバン石油開発の歩み
<b>1975(昭和50)年</b>	
4月 帝石大陸棚開発(株)を設立(2004.3解散) 6月 エジプト陸上東部砂漠ウエスト・バクル鉱区の権益取得(エジプト石油開発(株)) 12月 GCO油田が生産開始(ザイール石油(株):コンゴ石油(株)から名称変更)	5月 社名をインドネシア石油(株)に改称 7月 プカバイ油田本格生産移行 7月 ハンディル油田が暫定生産開始
<b>1976(昭和51)年</b>	
3月 重光敏生社長就任	6月 第1回配当実施 9月 ジャバン石油開発(株)、ウムシャイフ油田スーパーコンプレックス完成、強制水圧入を開始 10月 ジャバン石油開発(株)、大堀弘社長就任 12月 スニバターミナル(プカバイ、ハンディル油田)操業開始。ハンディル油田が本格生産移行
<b>1977(昭和52)年</b>	
1月 現南長岡地域のグリーンタフ(新関原1号井)でガス発見 3月 第60期(1976.1~12)から復配(年6%) 3月 ウエスト・バクル油田(EPK1x号井)発見(エジプト石油開発(株)) 10月 頸城Uブロック水攻法試験を開始	4月 ジャバン石油開発(株)、アラビヤ政府のADMA利権への事業参加に関する実施協定締結 6月 HUFFCOグループとマハカム沖のパダックガス田ユニット協定締結(1976.1.1発効) 7月 インドネシア・南ナトゥナ海Bブロック鉱区の権益取得(ナトゥナ石油(株)) 12月 インドネシア・イリアンジャヤ、クバラ・ブルン・スラタンBブロック鉱区の権益取得(ムトゥリ石油(株)) 12月 トゥヌガス田(トゥヌ1号井)発見 12月 高見澤二郎社長就任
<b>1978(昭和53)年</b>	
3月 Esso Exploration社と磐城沖共同開発合意 3月 木村繁雄社長就任 3月 東京ラインの白田切川横断部で土砂崩壊による切断事故が発生 5月 インドネシア・ジャンピA鉱区の権益取得(ジャンピ石油開発(株)) 10月 新潟市内野地区水溶性天然ガス田の生産停止	3月 ジャバン石油開発(株)、上部ザクム油田の権益取得(ADNOCと共同開発協定締結) 3月 インドネシア・イリアンジャヤ、クバラ・ブルン・スラタンAブロック鉱区の権益取得(ピントゥニ石油(株)) 9月 フィリピン・バラワン沖第5鉱区の権益取得(バラワン石油(株)) 9月 ジャバン石油開発(株)、ウムアダルク油田の探鉱開発のため、(ADNOCと共同開発協定締結) 10月 ジャバン石油開発(株)、ウムアダルク油田の操業会社UDECO社をADNOCと共同で設立
<b>1979(昭和54)年</b>	
2月 国立防災科学センターからの依頼で府中地震観測井の作井を実施 3月 東京ガス(株)本社向け天然ガス供給を停止 4月 帝石パイプライン管理(株)を設立(1992.7.1帝石パイプライン(株)に改称) 7月 新関原4号井成功(南長岡ガス田発見の端緒)	1月 ウダン油田が生産開始(ナトゥナ石油(株)) 10月 ジャバン石油開発(株)、田中武喜社長就任
<b>1980(昭和55)年</b>	
6月 ウエスト・バクル油田が生産開始(エジプト石油開発(株)) 7月 南長岡ガス田(越路原1号井)発見	7月 ジャバン石油開発(株)、サター構造等に関する共同開発協定をADNOCと締結
<b>1981(昭和56)年</b>	
10月 オマーン第Ⅲ鉱区の権益取得(オマーン石油開発(株)) 12月 磐城沖石油開発(株)を設立(2014.10解散) 12月 主要ガスライン集中監視制御システム(SCADAシステム)導入	2月 インドネシア・ナトゥナ海DⅢブロック鉱区の権益取得(スラサン石油(株))
<b>1982(昭和57)年</b>	
3月 赤松純二社長就任 10月 新潟平野全域でCGG社による地震探鉱を実施(1987.2終了) 12月 南長岡ガス田開発を用途とする株主割当中間発行増資を実施	4月 米国・カンザスプロジェクトに参加(INPEX AMERICA社) 6月 北スマトラ北アチェ沖鉱区の権益取得(アチェ石油(株)) 12月 ジャバン石油開発(株)、上部ザクム油田が生産開始 12月 HUFFCOグループとマハカム沖のニラム油・ガス田ユニット協定締結(1980.1.1に遡及して発効)
<b>1983(昭和58)年</b>	
10月 エジプト陸上東部砂漠ウエスト・カリム鉱区の権益取得(カリム石油開発(株))	6月 ジャバン石油開発(株)、上部ザクム原油引取第1船が日本入港 8月 カリマンタン陸上西ムラウイ鉱区の権益取得(西カリマンタン石油(株))

帝国石油の歩み	国際石油開発/ジャバン石油開発の歩み
<b>1984(昭和59)年</b>	
4月 技術研究所の建替完成 7月 磐城沖ガス田が生産開始(2007.7商業生産終了) 9月 越路原プラント完成、南長岡ガス田が生産開始	2月 コロンビア・サンティアゴ・デ・アタラヤス第Ⅰ鉱区、第Ⅱ鉱区(8月)の権益取得(コロンビア石油(株)) 4月 インベックストレーディング(株)を設立 12月 タンボラ油・ガス田が生産開始
<b>1985(昭和60)年</b>	
5月 日韓大陸棚共同開発第Ⅷ小区の試掘実施(1987.5プロジェクト終結) 10月 エジプト・スエズ湾ザファラナ鉱区の権益取得(スエズ石油開発(株))	6月 ジャバン石油開発(株)、西田彰社長就任 7月 ジャバン石油開発(株)、ウムアダルク油田が生産開始 12月 北スマトラ北アチェ沖鉱区で試掘井を掘削(オペレーター:アチェ石油(株))
<b>1986(昭和61)年</b>	
3月 伊東博助社長就任	4月 西豪州沖合AC/P7鉱区の権益取得(アシュモア石油(株)) 10月 北西ジャワ沖鉱区の権益取得(インベックスジャワ(株))、南東スマトラ沖鉱区の権益取得(インベックススマトラ(株))
<b>1987(昭和62)年</b>	
11月 新長岡ライン(長岡市~上越市)完成	7月 ジャバン石油開発(株)、サター油田が生産開始
<b>1988(昭和63)年</b>	
1月 ジャカルタ事務所を設置(2001.1廃止) 4月 原油二・三次回収組合事業で頸城油田CO <sub>2</sub> EOR実施(~1993年末) 10月 ガボン沖チボボマリル鉱区の権益取得(ガボン沖石油開発(株)) 11月 インドネシア・北東カリマンタン、センバクン鉱区の権益取得(東カリマンタン石油開発(株))	1月 ジャバン石油開発(株)、上部ザクム油田とウムアダルク油田、サター油田の操業を統合 6月 インベックスサービス(株)を設立 8月 カリマンタン陸上テウエ鉱区の権益取得(インベックステウエ(株)) 9月 西豪州沖合AC/P3鉱区の権益取得(カルティエ石油(株)) 10月 東カリマンタン沖テンガ鉱区の権益取得(インベックステンガ(株))
<b>1989(平成元)年</b>	
12月 バブアニューギニア沖PPL-63・85鉱区の権益取得(バブアニューギニア沖石油開発(株))	2月 北東ジャワ沖ブロックⅥ鉱区の権益取得(マドゥラ石油(株)) 2月 西豪州沖合WA-210-P鉱区の権益取得(アルファ石油(株)) 6月 勝谷保社長就任 6月 インタン油田が生産開始(インベックススマトラ(株)) 12月 インド南西沖KKOS-Ⅵ鉱区の権益取得(マラバール石油(株))
<b>1990(平成2)年</b>	
3月 武井友也社長就任 6月 バブアニューギニア・バブア湾岸PPL-123鉱区の権益取得(バブア湾岸石油開発(株)) 12月 東京ラインの長野ブースターステーション完成(2007.4藤岡BSに移転)	4月 改訂PS契約及び更新PS契約締結(インベックスジャワ(株)) 4月 ミャンマー陸上D鉱区の権益取得(マンダレー石油(株)) 5月 シリア陸上アルビシュリ鉱区の権益取得(アルビシュリ石油(株)) 7月 ウィリアガール油田が生産開始(ピントゥニ石油(株)) 8月 トゥヌガス田が生産開始 8月 改訂PS契約及び更新PS契約締結(ナトゥナ石油(株)) 12月 ウィドゥリ油田、北東インタン油田が生産開始(インベックススマトラ(株)) 12月 ジャワ海フィフィザイトウン鉱区の権益取得(フィフィザイトウン石油(株))
<b>1991(平成3)年</b>	
7月 米国・オクラホマ州陸上鉱区の権益取得(米国・法人Teikoku Oil(U.S.A.) Co., Ltd.)(2000.11Ward社とのプロジェクト終結と権益売却を決議) 7月 基礎試錐の常磐沖が開坑(9.30掘止、10.9廃坑)天然ガスの存在を確認	1月 改訂PS契約及び更新PS契約締結(マハカム沖鉱区) 3月 東ジャワ陸海域プランタス鉱区及び南カリマンタン陸上カハヤン鉱区の権益取得(プランタス石油(株)、カハヤン石油(株)) 7月 イエメン第2油田プロジェクトの権益取得(アルマバール石油(株)) 12月 インドネシア南ナトゥナ海ウエストナトゥナ鉱区の権益取得(インベックスウエストナトゥナ(株)) 12月 改訂PS契約及び更新PS契約締結(インベックススマトラ(株))
<b>1992(平成4)年</b>	
2月 豪州北部準州EP32鉱区、EP57鉱区の権益取得(北部オーストラリア湾岸石油開発(株)) 4月 ロンドン事務所を設置 6月 ベトナム南部沖合Q5-3鉱区の権益取得(ベトナム沖石油開発(株)) 7月 ベネズエラ・イースト・グアリコ鉱区の油田再生化事業、操業サービス契約締結(ベネズエラ石油(株)) 9月 アンゴラ、カピンダ・ノース鉱区の権益取得(帝石カピンダ石油(株))	1月 インドネシア・オーストラリア協力開発地域ZOCA91-01鉱区の権益取得(インベックスチモールシー(株)) 6月 ワディアベード油田がテスト生産開始(アルビシュリ石油(株)) 10月 ペリダ油田が生産開始(ナトゥナ石油(株))

帝国石油の歩み		国際石油開発/ジャバン石油開発の歩み	
<b>1993(平成5)年</b>			
5月	ヒューストン事務所を設置	4月	インドネシア・オーストラリア協力開発地域ZOCA91-12鉱区の権益取得(サウル石油㈱)
11月	ベネズエラ・サンビ・グレレ鉱区の油田再生化事業、操業サービス契約締結(サンビ・グレレ石油㈱)	4月	豪州アデレード西方沖合EPP25、26鉱区の権益取得(サウスリンカーン石油㈱)
12月	中国東海42/Q3鉱区の権益取得(東トンハイ石油㈱)、中国東海41/17鉱区の権益取得(西トンハイ石油㈱)	4月	メルボルン事務所を設置(アルファ石油㈱)(2002.6廃止)
12月	西豪州沖合WA-222-P、NT/P28(ペトレル)、WA-18-P(ターン)鉱区の権益取得(現地法人Bonaparte Gas and Oil Pty)	11月	ジャパン石油開発㈱、原油累計引取量10億バレル達成
		12月	中国タリム盆地第3鉱区の権益取得(インベックス南東タリム石油㈱)
<b>1994(平成6)年</b>			
3月	岡田久社長就任	1月	グリフィン油田が生産開始(アルファ石油㈱)
4月	西豪州沖合WA242-P鉱区、WA-239-P鉱区の権益取得(ヤンビ石油㈱、レベック石油㈱)	6月	スンビラン油田が生産開始(ナトゥナ石油㈱)
11月	南長岡ガス田の親沢プラント完成	7月	西豪州沖合WA-155-P鉱区の権益取得(アルファ石油㈱)
		7月	エジプト・南ペライム海上鉱区の権益取得(スエズ湾石油㈱)
		9月	ジャパン石油開発㈱、UDECO解散、管理及び操業をZADCOに委託
		9月	ジャパン石油開発㈱、松原治世社長就任
		11月	アルジェリア・陸上トゥグール鉱区の権益取得(北東サハラ石油㈱)
<b>1995(平成7)年</b>			
6月	ベトナム沖12W鉱区の権益取得(帝石ベトナム石油㈱)	1月	ニュージーランド・北島北西海域PEP38602鉱区の権益取得(ノースランド石油㈱)
<b>1996(平成8)年</b>			
2月	ロシア・オレンブルグ州バイツガンスコエ油田の権益取得(VF Russia社への資金・技術協力：BaiTexプロジェクト)	1月	アブダビ・アブ・アルブクーシュ鉱区の権益取得
6月	エジプト陸上西部砂漠エル・サルーム鉱区の権益取得(サルーム・エジプト石油㈱)	6月	松尾邦彦社長就任
10月	フォークランド諸島A鉱区の権益取得(帝石フォークランド石油㈱)		
10月	コロンビア・トコラグア鉱区の権益取得(帝石コロンビア石油㈱)		
<b>1997(平成9)年</b>			
1月	エジプト・スエズ湾ウエスト・アシュラフィ鉱区の権益取得(帝石スエズ石油㈱)	5月	インドネシア・チモール島沖合ラベ鉱区の権益取得(インベックスラベチモール海石油㈱)
11月	新東京ライン第一期(上越市～信濃町)完成		
<b>1998(平成10)年</b>			
2月	インドネシア・カボボサン鉱区の権益取得(帝石マカッサル石油㈱)	3月	ジャパン石油開発㈱、野々内隆社長就任
12月	アゼルバイジャン・カスピ海Areal地域の権益取得(日本アゼルバイジャン石油㈱)	8月	西豪州沖合WA-285-P鉱区の権益取得(インベックス西豪州ブラウズ石油㈱)
		9月	カザフスタン・北カスピ海沖合鉱区の権益取得(インベックス北カスピ海石油㈱)
		11月	インドネシア・アラフラ海マセラ鉱区の権益取得(インベックスマセラアラフラ海石油㈱)
		12月	パース事務所を設置
<b>1999(平成11)年</b>			
3月	磯野啓社長就任	7月	ブラジル・カンボスペースンBC-4及びフラージ鉱区の権益取得(Frade Japão Petróleo Limitada)
12月	石油製品の貯蔵出荷施設オイルターミナル直江津が稼働開始		
<b>2000(平成12)年</b>			
2月	日石三菱グループと資本・業務提携について基本的合意	3月	イクシスガス・コンデンセート田(Dinichthys1号井)発見(インベックス西豪州ブラウズ石油㈱)
2月	コロンビア・陸上グアデュアレス鉱区の権益取得(帝石マグダレナ石油㈱)	7月	カシャガン油田(カシャガン・イースト1号井)発見(インベックス北カスピ海石油㈱)
6月	米国・メキシコ湾大水深アラミノス・キャニオン194、195鉱区の権益取得(米国人法人Teikoku Oil (Gulf of Mexico) Co., Ltd.)	11月	ブラジル、アルバコーラ油田開発協力契約締結(現地法人Albacora Japão Petróleo Limitada)
7月	アルジェリア南東部オハネット鉱区のリスクサービス契約締結(オハネットオイルアンドガス㈱)	12月	アバディガス・コンデンセート田(アバディ1号井)発見(インベックスマセラアラフラ海石油㈱)
10月	マレーシア、SK-10、SK-8鉱区のガス田開発事業に参加		
12月	新東京ライン第二期(信濃町～軽井沢町)完成		

帝国石油の歩み		国際石油開発/ジャバン石油開発の歩み	
<b>2001(平成13)年</b>			
3月	アルジェリア陸上/222b鉱区の権益取得(帝石アルジェリア石油㈱)	6月	インドネシア南ナトゥナ海よりシンガポールへの天然ガスの供給開始(ナトゥナ石油㈱、パイプラインによるインドネシア最初の国外向けのガス供給)
4月	日石三菱とNexTエネルギー㈱を設立	8月	豪州ビクトリア州沖合VIC/P42鉱区の権益取得、VIC/P45鉱区の権益取得(10.12)(アルファ石油㈱)
8月	石油公団との共同研究で掘削した南長岡MHF-1で天然ガス生産能力の改善に成功	9月	インドネシア石油㈱(Indonesia Petroleum, Ltd.)から国際石油開発㈱(INPEX CORPORATION)に社名変更
11月	アルジェリア東部、エル・オアール1、2鉱区の権益取得(帝石エルオアール石油㈱)	10月	インドネシア・イリアンジャヤ州ベラウ鉱区(タングーLNGプロジェクト)の権益取得(MI Berau社)
		12月	インドネシア・マカッサル海峡ドンガラ鉱区の権益取得
		12月	インドネシア・ナトゥナ海ニラ鉱区の権益取得(ナトゥナ石油㈱)
<b>2002(平成14)年</b>			
1月	松本ライン(東御市～松本市)完成	8月	インドネシア南ナトゥナ海よりマレーシアへの天然ガス供給開始(ナトゥナ石油㈱、パイプラインによるインドネシア2番目の国外向けのガス供給)
2月	入間ライン(日高市～青梅市)完成	9月	豪州ビクトリア州沖合VIC/P51鉱区、VIC/P52鉱区及びタスマニア州北西沖合T/33P鉱区の権益取得(アルファ石油㈱)
5月	南長岡でのフラクチャリング成功が石油学会技術進歩賞と石油技術協会業績賞を受賞	9月	BTCパイプライン・プロジェクトの権益取得
10月	静岡ガス㈱、東京ガス㈱と共同で南富士幹線建設に合意	10月	BTCCパイプラインの建設開始
		10月	カラムカス油田(カラムカス1号井)発見(インベックス北カスピ海石油㈱)
		11月	西豪州沖合WA-288-P鉱区及びWA-311-P鉱区の権益取得(アルファ石油㈱)
<b>2003(平成15)年</b>			
6月	甲府ライン(茅野市～昭和町)完成	3月	ジャパン石油開発㈱、東京地裁に民事再生法の適用申請
7月	岩野原基地で二酸化炭素の圧入実証試験を開始	4月	アゼルバイジャン南カスピ海沖合ACG油田の権益取得(インベックス南カスピ海石油㈱)
10月	静岡ガス㈱、東京ガス㈱と南富士パイプライン㈱を設立	11月	カシャガン・サウスウエスト油田(カシャガン・サウスウエスト1号井)、アクトテ油田(アクトテ1号井)発見(インベックス北カスピ海石油㈱)
10月	オハネット・ガス田が生産開始(オハネットオイルアンドガス㈱)		
11月	エジプト・スエズ湾カリグ・エル・サイト鉱区、サウス・イースト・ジュライ鉱区の権益取得(帝石スエズKEZ㈱、帝石スエズSEJ㈱)		
11月	ヘラン・ガス田が生産開始(日石マレーシア石油開発㈱)		
<b>2004(平成16)年</b>			
1月	メキシコ北東部、クエルビト鉱区及びフロンテリソ鉱区のガス田開発サービス契約締結(現地法人Teikoku Oil de Burgos S.A. de C.V.)	2月	バユ・ウンダン ガス・コンデンセート田でコンデンセートの生産開始(サウル石油㈱)
2月	石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)設立	2月	イラン、アザデガン油田の評価・開発に関する契約締結
4月	ガス導管事業部を設置	2月	石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)設立
6月	セライ・ガス田が生産開始(日石サラワク石油開発㈱)	4月	ジャパン石油開発㈱、原油累計引取量20億バレル達成
9月	ジンタン・ガス田が生産開始(日石サラワク石油開発㈱)	4月	ジャパン石油開発㈱、碓井滋社長就任
10月	ベトナム南部海上O5-1(b)・(c)鉱区の権益取得(帝石コンソン石油㈱)	5月	ジャパン石油開発㈱、国際石油開発㈱の100%子会社となる
10月	両毛ガス事業協同組合から両毛ライン(本庄市～館林市・佐野市)を取得	7月	カイラン油田(カイラン1号井)発見(インベックス北カスピ海石油㈱)
11月	東京ガス㈱、上田ガス㈱とともに長野都市ガス㈱を設立	11月	東京証券取引所市場第一部に株式上場
		12月	ベラナック油・ガス田で原油・コンデンセート・ガスの生産開始(ナトゥナ石油㈱)
<b>2005(平成17)年</b>			
1月	エクアドル東部オリエンテ地方ブロック18鉱区、ブロック31鉱区のファームイン契約に調印(ケイマン法人Teikoku Oil Ecuador S.A.)	2月	アゼリ油田(中央部)が生産開始(インベックス南西カスピ海石油㈱)
3月	梶岡雅俊社長就任	6月	黒田直樹社長就任
7月	入間ライン延伸(日高市～鴻巣市)完成	8月	APNガス田が生産開始(インベックスジャワ㈱)
7月	東シナ海における試掘権の設定を許可される	10月	リビア陸上42-2&4鉱区の権益取得(インベックスリビア㈱)
8月	エジプト・スエズ湾サウス・オクトーバー鉱区、陸上西部砂漠ノース・カルン鉱区の権益取得(帝石スエズSOB㈱、帝石ナイルNQR㈱)	11月	国際石油開発㈱と帝国石油㈱が共同株式移転契約締結
11月	国際石油開発㈱と帝国石油㈱が共同株式移転契約締結	12月	新日本石油㈱・帝国石油㈱・国際石油開発㈱が、帝国石油㈱と国際石油開発㈱との経営統合に関連して合意
11月	ベネズエラ西部、ティナコ鉱区の権益取得(オランダ法人Teikoku Oil SCT Exploration B.V.)	12月	アゼリ油田(西部)が生産開始(インベックス南西カスピ海石油㈱)
12月	新日本石油㈱・帝国石油㈱・国際石油開発㈱が、帝国石油㈱と国際石油開発㈱との経営統合に関連して合意		
12月	リビア北西部、81-2鉱区、82-3鉱区の権益取得(英国法人Teikoku Oil Libya UK LTD)		

帝国石油の歩み	国際石油開発の歩み
<b>2006(平成18)年</b>	
<p>1月 ベネズエラ湾南東部、モルイII鉱区の権益取得(現地法人P.T. Moruy II S.A.)</p> <p>2月 ベネズエラ石油㈱、ベネズエラでの作業サービス協定改訂の覚書締結(同国国营石油会社とそれぞれのジョイントベンチャー2つを設立の基本合意)</p> <p>4月 国際石油開発帝石ホールディングス㈱を設立、東京証券取引所市場第一部に株式上場</p> <p>4月 米国・メキシコ湾浅海域～沿岸域鉱区の権益取得(米国・法人Teikoku Oil (North America) Co., Ltd.)</p> <p>9月 ベネズエラ石油㈱、ベネズエラでジョイントベンチャー契約締結(ガス事業はジョイントベンチャーGas Guarico社(当社70%、PDVSA Gas30%)を、原油事業はジョイントベンチャーPetroguarico, S.A.(当社30%、CVP70%)を設立)</p> <p>12月 静岡ライン(昭和町～御殿場市)完成</p> <p>12月 南富士パイプライン㈱、南富士幹線(富士市～御殿場市)完成</p> <p>12月 越路原プラントCトレインが稼働</p>	<p>3月 バユ・ウンダン ガス・コンデンセート田でLNG出荷開始(サウル石油㈱)</p> <p>4月 国際石油開発帝石ホールディングス㈱を設立、東京証券取引所市場第一部に株式上場</p> <p>5月 南東スマトラ沖鉱区で天然ガスを供給開始(インベックススマトラ㈱)</p> <p>6月 INPEX BTC Pipeline、BTCパイプラインから原油出荷開始</p> <p>7月 西豪州沖合WA-274-P鉱区とWA-281-P鉱区の権益取得(インベックス西豪州ブラウズ石油㈱)</p> <p>7月 西豪州沖合WA-357-P鉱区の権益取得(アルファ石油㈱)</p> <p>10月 アゼリ油田(東部)が生産開始(インベックス南西カスピ海石油㈱)</p>
<b>2007(平成19)年</b>	
<p>5月 越路原プラントにて火力発電所の営業運転を開始</p> <p>7月 新潟県中越沖地震発生、被災地支援活動を開始</p> <p>8月 国際石油開発帝石ホールディングス㈱、直江津LNG受入基地建設計画を発表</p> <p>8月 南桑山油田北西部の試掘井・南桑山TT-1において、原油と天然ガスの賦存を確認</p> <p>8月 スリナム海域ブロック31の権益取得(帝石スリナム石油㈱)</p> <p>9月 直江津LNG受入基地建設に向けた確認書を新潟県・上越市と締結</p> <p>12月 新東京ライン第三期(軽井沢町～富岡市)と群馬ライン(富岡市～安中市)完成</p>	<p>3月 東カリマンタン沖南東マハカム鉱区の権益取得</p> <p>4月 リビア・陸上113-3/4鉱区の権益取得(インベックスリビア㈱)</p> <p>5月 ジャワ海東部東スパンジャン鉱区の権益取得(インベックス北東ジャワ沖石油㈱)</p> <p>10月 マハカム沖鉱区において、イーストマンドゥー・ガス田(イーストマンドゥー1号井)、ウエストストゥーバガス田(ウエストストゥーバ1号井)発見</p> <p>10月 西豪州沖合WA-341-P鉱区、WA-343-P鉱区、WA-344-P鉱区の権益取得(インベックス西豪州ブラウズ石油㈱)</p> <p>11月 カナダ、ジョスリンオイルサンド上流開発プロジェクトの参加権益取得(インベックスカナダ石油㈱)</p> <p>11月 シシ・ヌビガス田が生産開始(国際石油開発㈱、インベックステンガ㈱)</p>
<b>2008(平成20)年</b>	
<p>3月 新潟県中越沖地震に伴う支援活動に対して新潟県より感謝状</p> <p>4月 国際石油開発帝石ホールディングス㈱及び国際石油開発㈱との合併契約締結</p> <p>8月 直江津LNG受入基地の建設決定</p>	<p>3月 キタン油田(Kitan1号井)発見(サウル石油㈱)</p> <p>3月 国際石油開発帝石ホールディングス㈱、英国シェトランド島沖合P799ライセンスの権益取得(INPEX UK LIMITED)</p> <p>4月 グナシリ油田深海部で生産開始(インベックス南西カスピ海石油㈱)</p> <p>4月 国際石油開発帝石ホールディングス㈱及び帝国石油㈱との合併契約締結</p> <p>5月 西豪州沖合WA-410-P鉱区、WA-411-P鉱区の権益取得(インベックス西豪州ブラウズ石油㈱)</p> <p>8月 ミミアガス・コンデンセート田(Mimia1号井)発見(インベックス西豪州ブラウズ石油㈱)</p>